

競 技 注 意 事 項

本大会は、2017年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合規定を準用し実施する。

1. 大会規定によって競技を行う。

2. 競技者の招集について

- (1) 招集場所は、競技場 100m スタート地点の後方（第1ゲートの外側）とする。
- (2) 招集開始時刻及び完了時刻は、すべてその競技開始時刻を規準とし、下記の通りとする。

| 種 目 | 招集開始時刻 | 招集完了時刻 |
|---------|--------|--------|
| トラック競技 | 2 5 分前 | 1 5 分前 |
| フィールド競技 | 4 5 分前 | 3 0 分前 |

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は棄権したものと見なし処理する。
- (4) 点呼を終えた後も勝手に招集場所を離れないこと。
- (5) 他競技に出場の競技者については、競技者自身または監督により、その旨を競技者係及びその競技の審判員に申し出て出場の許可を得ること。
- (6) リレー競技に出場するチームは、第1組の招集開始1時間前までにオーダー用紙を競技者係に提出すること。オーダー用紙は競技者係から受け取ること。

3. トラック競技について

- (1) スターターの合図は、小学生は日本語、中学生以上は英語（「On Your Marks」「Set」）で行う。不正スタートをした場合は、小学生は同じ競技者が2回で失格、中学生以上は1回目で失格とする。
- (2) 短距離種目では、競技者安全のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。リレーのセパレートレーンでバトンパスを行う場合は、バトンパス後も自分のレーンを走ること。また、バトンパスが終わったら、自分のレーンのマークをはずすこと。
- (3) タイムによる次のラウンドに進む出場者の決定については、最終枠に同記録がある場合は、レーンに余裕がある場合は、次のラウンドに進むことができる。レーンに余裕がない場合は、判定写真を拡大し、細部（電気計時0.001秒）まで読み取り、着差を判定して出場者を決定する。それでも決定できない時は、本人または代理人による抽選で決定する。
- (4) 100mはタイム上位者をA決勝とし、更に予選のタイム10～18位をB決勝として実施する。各種目B決勝を先に行い、A決勝を後に行う。また表彰についてはA決勝出場者のみ対象とする。
- (5) 腰ナンバーは、短パンの右腰やや後ろにつけること。
- (6) 短距離種目は、風の状況により、バックストレートフィニッシュを行うこともある。

4. フィールド競技について

- (1) 走幅跳は、8名以下の場合でも試技数は6回とする。
- (2) 三段跳は、8名以下の場合でも試技数は6回とする。
- (3) 走高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。（※マスターズ男女については、当日決定する。）

| | | | |
|---------|------------|-------------------|------------------|
| 中学女子 | （練習 1 m15） | 1 m20（以後 5 cm上がり） | 1 m40 以後 3 cm上がり |
| 高校・一般女子 | （練習 1 m40） | 1 m43（以後 3 cm上がり） | 1 m60 以後 3 cm上がり |
| 中学男子 | （練習 1 m35） | 1 m40（以後 5 cm上がり） | 1 m55 以後 3 cm上がり |

5. その他

- (1) 種目ごとの1位から3位までメダルを授与する。表彰は競技後すぐに行うので、1位から3位に入賞した競技者はすぐに大会本部に来ること。なお、フィールド競技の表彰は、A・Bゾーン、Bピットでの実施競技は、現地で表彰を行う。
- (2) 全競技終了後、最優秀選手賞（北海道知事杯、記念品）、優秀選手賞（北海道新聞社、読売新聞社、報知新聞社、北海道日刊スポーツ新聞社、北海道ハイテク AC、一般財団法人札幌陸上競技協会）を授与する。
- (3) ウォーミングアップは競技の妨げにならないよう、競技場内で行ってよい。但し、11時～12時、14時～15時はフィールド内は使用出来ません。
- (4) 自分のゴミは持ち帰ること。
- (5) テントは通行の妨げにならないように張り、通路の安全を確保すること。風速10m以上の風により、テントが飛ばされ、事故があった場合、持ち主が賠償を請求される可能性があります。テントの取扱説明書をよく読み、テントの設営をしっかりと行い、風が強いときはたたむなど対策をお願いします。
- (6) 競技の進行上、競技開始時刻が変更になる場合があるので、放送に注意すること。
- (7) 競技に使用する用具は、やり以外すべて主催者が用意したものをを使用すること。やりの検定は本部で行う。
- (8) 競技用靴について、スパイクピンの長さは、9mm以内、走高跳・やり投は、12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は、11本以内とする。
- (9) 補助競技場は、使用しないので注意すること。
- (10) 駐車場は、第1駐車場を使用すること。

※競技場内、正面スタンド下の駐車場は、許可車両以外駐車禁止です。